

第107回

全国高校野球 青森大会

第3日

野辺西 初回9得点

▽1回戦（はるか夢）	
野辺地西	29002
五所農林	33000
	01715
	(七回コールド)

（野）今井、一ノ瀬、泉
（五）秋元隆、赤城、蒔田、秋元魁
▽本塁打 佐々木（野）
▽三塁打 兼平2（五）▽二塁打 泉2、佐々木2（野）
▽暴投 赤城（五）▽捕逸 泉（野）

【評】野辺地西は初回、佐々木の左越え先頭打者本塁打で勢いづく。さらに後続も量みかけ、計14人の猛攻で9点を奪い、勝機を引き寄せた。三、四回には泉、樺本の連続適時打で5点を追加。四回途中から救援した一ノ瀬は一度の満塁のピンチ



【野辺地西—五所農林】1回表、野辺地西無死、左越え本塁打を放った先頭打者の佐々木がガッツポーズでダイヤモンドを回る—はるか夢

◆先発登板して6失点が出せなかった。悔しを喫した青森中央・松風（松風塾の2人）は、この主将でエースの秋池（青森中央、3年）が何回もあつたので感謝分たちがやってきたこととしている。野球部の3年間は長いようで、あつという間。来々、後輩たちはチームの目標であるベスト8に行つてほしい。

をしのぎ、自責点0で試合を締めた。五所農林は失点後、兼平の長打などで追いかけ、ついに7点を奪った。が、序盤の失点が重くのしかかった。◆初回に先頭打者本塁打を放った野辺地西の佐々木（3年）前日の夜からホームランを打つことをイメージしていた。とをイメージしていた。打った瞬間に（フェンスを越えたと確信。球がぐんぐん伸びていくのがとにかくれなかった。先頭で打たれたと相手にとつてもプレッシャーに。次戦も1番として勝利を確信できる一打を放ちたい。◆2打席連続で三塁打を放った五所農林の兼平（3年）初回に9点を取られてしまったので打つしかないと思ひ、真ん中に来る球に狙いを絞つて振り切った。ベンチからの声かけなど雰囲気はとも良かった。悔しい気持ちはあるけれども、今まで練習してきたことはできたので、悔いはない。